

立高生活は人生のふるさとです

東京大学大学院医学系研究科
高齢者在宅長期ケア看護学分野 准教授

五十嵐 歩氏 (高校50期)

1998年 立川高校卒業
2002年 東京医科歯科大学 医学部保健衛生学科看護学専攻 卒業
2002年 公益財団法人東京都医療保健協会 練馬総合病院 看護師
2009年 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科 博士後期課程 修了
2009年 公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 研究員
2011年 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科 助教
2013年 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 助教→准教授 現在に至る



立高の皆さん、こんにちは。私は、立高を卒業して約25年後の現在、大学で看護学の教育と研究を行う仕事をしています。地域や介護施設などで暮らす高齢者や医療機関に入院し療養している高齢の方々が、質の高い支援・ケアを受けながら、自分らしい生活を送れるようにするためのケア技術の開発や地域のシステムづくりに関する研究を行っています。

【立高時代の生活】

立高では体操部と応援団に入部し、友人たちと楽しく毎日を過ごしました。立高祭の時期には学校全体が立高祭一色の中、厳しい応援団の練習に励んだのが良い思い出です。勉強も部活も行事も、メリハリをつけて一生懸命取り組むという姿勢が立高生活を通して身に着き、今の仕事や子育て(!)にも役立っていると感じます。

卒業後の今、在学中はあまり話したことのなかった同級生でも、そして在学期間が重なっていない先輩や後輩でも、「立高生」と言えば立高での思い出(伝統歌や立高用語など)を共有できて、楽しかったことがよみがえったりほっと安心できたりする。それが立高の魅力だと実感しています。

【卒業後の活動】

人の健康に関わる仕事に関心があり、自分の専門性をもって働き続けられそうな看護の道を選びました。高校卒業後、東京医科歯科大学医学部保健衛生学科に進学し、看護師・保健師の資格を取得しました。大学卒業後は総合病院の外科病棟で看護師として働き、同時に出身大学の研究室で研究にも関わらせてもらいながら過ごす中で、医療の現場をより良くするための研究にきちんと取り組んでみたいという思いが強くなり、大学院へ進学しました。博士課程在学中に第一子を出産し、修了後は子育てをしながら研究所や大学で働き、現在に至っています。

現在の研究テーマは、「認知症があっても暮らしやすいまちづくり」です。ゲーミフィケーションやVR (virtual reality) 技術を用いた、地域の人々の認知症への理解を深めるアプローチの開発に取り組んでいます。これからの長寿社会の中では、病気や障がいがあっても必要な支援を受けながら、一人ひとりが自分らしく生きられる社会の仕組みづくりが求められており、そのようなことに貢献できる仕事を続けていきたい



と考えています。これから日の出町でまちづくりの研究に取り組む予定なのですが、そのきっかけも立高の先輩からいただいたご縁で、ここでも立高って本当にすごい！と感激しています。

【立高生へ】

月並みですが、今しかない高校生活を精一杯楽しんでください。時には立ち止まって関心のあることに心ゆくまで没頭したり、様々なことに挑戦したりした経験が、その後の人生の糧になると思います。

←VRで認知症のある方の視点を疑似体験している様子です。